

IV. 班會議

厚生労働省科学研究費補助金

「難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等実用化研究事業（免疫アレルギー疾患等実用化研究事業 免疫アレルギー疾患実用化研究分野）」）：
生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定
(H24-難治等（免）-一般-005)」

平成 26 年度 第 1 回 班会議プログラム

日時：平成 26 年 7 月 6 日（日）13：00～16：00（予定）
場所：島根イン青山 多目的ホール パインコートⅡ
住所：〒107-0062 東京都港区南青山 7 丁目 1 番 5 号
Tel：03-3797-3399

事務局：島根大学医学部皮膚科
担当：高橋 仁、板倉絹子
〒693-8501 出雲市塩冶町 89-1
TEL 0853-20-2210
FAX 0853-21-8317
e-mail tkh4@med.shimane-u.ac.jp（高橋）
kinitaku@med.shimane-u.ac.jp（板倉）

平成 26 年度 第 1 回 班会議プログラム

13:00～

開会の挨拶、本年度の研究内容について
研究代表者 森田栄伸（島根大学医学部皮膚科）

13:10～14:00 共通研究課題

加水分解コムギアレルギーの予後調査
千貫祐子（島根大学医学部皮膚科）

ケースカードの解析
高橋 仁（島根大学医学部皮膚科）

OAS の疫学に関するアンケート調査の中間報告
北場俊、小野慧美、松井佐起、室田浩之、片山一郎（大阪大学医学部皮膚科）

14:00～15:00 症例検討など

重症モモアレルギー診断における Peamaclein の重要性
相原道子、猪又直子（横浜市立大学 皮膚科）

小児の小麦依存性運動誘発アナフィラキシー症例について
伊藤浩明（あいち小児保健医療総合センター アレルギー科）

エビ FDEIA の原因抗原解析（第 1 報）
松尾裕彰、横大路智治（広島大学大学院医歯薬保健学研究科 病態解析治療学）

15:00～

FDEIA、OAS の概念と診断基準についての検討
パンフレットの作成
その他

事務連絡、次回会議日程について
高橋 仁、板倉絹子、藤井 愛（島根大学医学部皮膚科）

（進行により、時間の変更がございますので、ご容赦願います）

平成 26 年度班員名簿

氏名	所属
森田 栄伸	島根大学医学部皮膚科 教授
松永 佳世子	藤田保健衛生大学医学部皮膚科 教授
秀 道広	広島大学大学院医歯薬保健学研究院皮膚科 教授
岸川 禮子	国立病院機構福岡病院アレルギー科 医長
福富 友馬	国立病院機構相模原病院臨床研究センター 診断・治療薬開発研究室 室長
千貫 祐子	島根大学医学部皮膚科 講師
片山 一朗	大阪大学大学院医学系研究科皮膚科 教授
横関 博雄	東京医科歯科大学医学部皮膚科 教授
相原 道子	横浜市立大学医学部皮膚科 教授
藤枝 重治	福井大学医学部耳鼻咽喉科 教授
塩飽 邦憲	島根大学 理事・副学長
松尾 裕彰	広島大学大学院医歯薬保健学研究科病態解析治療学 教授
平郡 真記子	広島大学大学院医歯薬保健学研究院皮膚科 大学院生
足立 厚子	兵庫県立加古川医療センター皮膚科 部長
伊藤 浩明	あいち小児保健医療センター部長
矢上 晶子	藤田保健衛生大学医学部皮膚科 准教授
堀川 達弥	西神戸医療センター皮膚科 部長
高橋 仁	島根大学医学部皮膚科 助教
北場 俊	公立学校共済組合 近畿中央病院皮膚科 医長
松井 佐起	大阪大学大学院医学系研究科皮膚科
小野 慧美	大阪大学大学院医学系研究科皮膚科
宇賀神 つかさ	東京医科歯科大学医学部皮膚科 助教
大澤 陽子	福井大学医学部耳鼻咽喉科
板倉 絹子	島根大学医学部皮膚科
藤井 愛	島根大学医学部皮膚科

平成 26 年度 食物アレルギー研究班第 1 回班会議検討事項議事録
研究課題「生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の
開発および治療指針の策定」

日時：平成 26 年 7 月 6 日（日）13：00～16：00

場所：島根イン青山 多目的ホール パインコートⅡ

住所：〒107-0062 東京都港区南青山 7 丁目 1 番 5 号

班会議プログラム

1. 開会の挨拶、本年度の研究内容について
研究代表者 森田栄伸（島根大学医学部皮膚科）
2. 共通研究課題
加水分解コムギアレルギーの予後調査
千貫祐子（島根大学医学部皮膚科）
ケースカードの解析
高橋 仁（島根大学医学部皮膚科）
OAS の疫学に関するアンケート調査の中間報告
北場俊、小野慧美、松井佐起、室田浩之、片山一朗（大阪大学医学部皮膚科）
3. 症例検討など
重症モモアレルギー診断における Peamaclein の重要性
相原道子、猪又直子（横浜市立大学 皮膚科）
小児の小麦依存性運動誘発アナフィラキシー症例について
伊藤浩明（あいち小児保健医療総合センター アレルギー科）
エビ FDEIA の原因抗原解析（第 1 報）
松尾裕彰、横大路智治（広島大学大学院医歯薬保健学研究科 病態解析治療学）
4. 検討事項
FDEIA および OAS の概念と診断基準についての検討
パンフレットの作成
その他

事務連絡、次回会議日程について

検討事項

1. 加水分解コムギアレルギーの実態と予後調査について

①施設：分担研究者、研究協力者の診療施設

②調査内容：

略治群、未治癒群、未摂取群の割合

初診時と現時点の血清中抗体価の推移

調査項目に重症度を加えることとした。

2. FDEIA および OAS の疾患概念と診断基準について

① 疾患概念

食物依存性運動誘発アナフィラキシー (Food-Dependent Exercise-Induced Anaphylaxis: FDEIA) 「即時型食物アレルギーの特殊型で、特定の食物摂取と運動等の二次的要因の組み合わせで蕁麻疹等のアレルギー症状をきたすものをいい、重篤な場合はショックをきたす。」

口腔アレルギー症候群 (Oral Allergy Syndrome: OAS) 「即時型アレルギーの特殊型で、食物摂取時に口腔・咽頭粘膜の過敏症状をきたすものをいい、重篤な場合はショックをきたす。」

OAS の疾患概念については、OAS 分科会を開催し、議論することとした。

②診断基準（案）の議論

小麦 FDEIA の場合：

- ① 小麦製品の摂取後に、運動などの*二次的要因により蕁麻疹などの即時型アレルギー症状を生じる。
- ② 経口小麦負荷試験（小麦摂取+運動負荷、アスピリン+小麦摂取あるいはアスピリン+小麦摂取+運動負荷）で即時型アレルギー症状が誘発される。
- ③ 血清中に小麦蛋白質（ ω -5 グリアジンを含む）特異的 IgE が証明される。
- ④ 小麦蛋白質のプリックテストが陽性を示す。

確定診断：①と②を満たす。または①を複数回繰り返し、③または④、あるいは両者を満たす。

*二次的要因には非副腎皮質ステロイド系消炎鎮痛薬の服用やアルコール飲料の摂取などを含む。

バラ科果物関連 OAS の場合：

- ① バラ科の果物を摂取時に口腔・咽頭粘膜の過敏症状を示す。
- ② バラ科の果物によるプリックテストが陽性を示す。
- ③ 血清中にバラ科の果物特異的 IgE が証明される。

④ 血清中にシラカバあるいはハンノキ特異的 IgE が証明される。

確定診断：①～④の全てを満たす。または複数のバラ科果物で①、②を満たす。①を満たし、③または④、あるいは両者を満たす場合は疑い例とする。

なお、バラ科 OAS の診断基準案は、OAS 分科会において議論することとした。

3. OAS 分科会について

OAS の疾患概念、および、診断基準について議論するため、OAS 分科会を開催することとした。参加者は、OAS 分科会メンバーと参加可能な班員とした。

4. 負荷試験実施要項について

FDEIA 負荷試験の実施マニュアルを作成することとした（参考：臨床皮膚科増刊号 2008 年、食物アレルギー経口負荷試験ガイドライン 2009）

5. 成果の公表について

来年度は成果をまとめたパンフレットの作成と学会ホームページへの掲載を行う。集計例の論文文化を行う。

5. OAS 患者に対するアンケートについて

各施設において、外来受診の患者さんに対して OAS に関するアンケート調査の実施しており、締め切りは 11 月中旬までとする。データの提出はエクセルファイルに入力し、北場俊先生（大阪大学）へ送付する。

6. 抗 IgE 抗体療法について

悠香、フェニックス、片山工業による 5000 万円の基金を設立し、加水分解コムギアレルギーの難治例における抗 IgE 抗体療法の有効性を検討する医師主導臨床研究を希望施設において実施する。基金の管理は NPO 法人「生活習慣病予防研究センター」にて行う。

7. 平成 26 年度第 2 回班会議は平成 27 年 1 月 12 日（月）10：00 ～ 15：00 に予定

平成 26 年度 食物アレルギー研究班 OAS 分科会 会議議事録
研究課題「生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の
開発および治療指針の策定」

日時：平成 26 年 9 月 23 日（火）10：00～13：00

場所：新大阪丸ビル 新館 5 階 505 号室

住所：〒533-0033 大阪市東淀川区東中島 1 丁目 18-27

OAS 分科会プログラム

1. 開会の挨拶、OAS 分科会での検討項目について
研究代表者 森田栄伸（島根大学医学部皮膚科）
2. 検討事項
OAS の概念、および、OAS の診断基準について
パンフレットに記載する項目について
OAS の重症度分類について
3. アレルゲンコンポーネント解析からみた OAS
大澤陽子¹⁾、藤枝重治²⁾ ((1) 福井赤十字病院 耳鼻咽喉科、(2) 福井大学医学部耳鼻咽喉科学教室)

検討事項

1. OAS の疾患概念と診断基準について
 - ① 疾患概念の変更
口腔アレルギー症候群 (Oral Allergy Syndrome: OAS) 「即時型アレルギーの特殊型で、食物摂取時に口腔・咽頭粘膜の過敏症状をきたすものをいい、ショックをきたすことがある。」
 - ② 診断基準（案）の議論
診断基準のタイトルを「OAS の診断基準」とした。
診断基準は下記のように変更し、診断基準に「参考所見」の項目を記載することとした。

OAS の診断基準

- ① 特定の食物を摂取時に口腔・咽頭粘膜の過敏症状を示す。
 - ② ①の食物によるプリックテストが陽性を示す。
 - ③ 血清中に①の食物特異的 IgE が証明される。
- ①を必須として、②または③を満たす場合を OAS と診断する。

参考所見

- ・ 特異的 IgE 検査よりも、プリックテストの信頼性が高い。
- ・ 果物、野菜が原因の場合は、関連する花粉【カバノキ科（シラカンバ、ハンノキ）、イネ科、キク科】特異的 IgE が証明されることが多い。

③パンフレットに記載する項目について

Latex-fruit syndrome は、OAS の診断基準とは別にした項目として記載することとした。

2. 重症度分類について

OAS のステージ分類（日本内科学会雑誌 93(5), 1032-1040, 2004）（表 1）を参考に作成することとした。

表 1. 口腔アレルギー症候群 (OAS) のステージ分類

ステージ 1:	口腔咽頭症状
ステージ 2:	口腔咽頭症状 + 鼻眼症状
ステージ 3:	口腔咽頭症状 + 鼻眼症状 + 汎発性蕁麻疹 + 喘息・胃腸症状
ステージ 4:	口腔咽頭症状 + 鼻眼症状 + 汎発性蕁麻疹 + 喘息・胃腸症状 + アナフィラキシー

引用: Maibach らによる接触蕁麻疹症候群のステージ分類（Contact Dermatitis 15(2), 100, 1986）に沿って作成したものを引用（日本内科学会雑誌 93(5), 1032-1040, 2004）

平成 26 年度班員名簿		
氏名	所属	出欠
森田 栄伸	島根大学医学部皮膚科 教授	出席
松永 佳世子	藤田保健衛生大学医学部皮膚科 教授	欠席
秀 道広	広島大学大学院医歯薬保健学研究院皮膚科 教授	欠席
岸川 禮子	国立病院機構福岡病院アレルギー科 医長	欠席
福富 友馬	国立病院機構相模原病院臨床研究センター 診断・治療薬開発研究室長	出席
千貫 祐子	島根大学医学部皮膚科 講師	出席
片山 一朗	大阪大学大学院医学系研究科皮膚科 教授	欠席
横関 博雄	東京医科歯科大学医学部皮膚科 教授	欠席
相原 道子	横浜市立大学医学部皮膚科 教授	出席
藤枝 重治	福井大学医学部耳鼻咽喉科 教授	出席
塩飽 邦憲	島根大学 理事・副学長	欠席
松尾 裕彰	広島大学大学院医歯薬保健学研究院病態解析治療学 教授	欠席
平郡 真記子	広島大学大学院医歯薬保健学研究院皮膚科	欠席
足立 厚子	兵庫県立加古川医療センター皮膚科 部長	出席
伊藤 浩明	あいち小児保健医療センター内科 部長	欠席
矢上 晶子	藤田保健衛生大学医学部皮膚科 准教授	出席
堀川 達弥	西神戸医療センター皮膚科 部長	欠席
高橋 仁	島根大学医学部皮膚科 助教	出席
北場 俊	公立学校共済組合 近畿中央病院皮膚科 医長	出席
松井 佐起	大阪大学大学院医学系研究科皮膚科	欠席
小野 慧美	大阪大学大学院医学系研究科皮膚科	出席
宇賀神 つかさ	東京医科歯科大学医学部皮膚科	欠席
芝間 さやか	東京医科歯科大学医学部皮膚科	欠席
大澤 陽子	福井赤十字病院耳鼻咽喉科	出席
杉山 晃子	国立病院機構福岡病院アレルギー科	欠席
中村 政志	藤田保健衛生大学医学部皮膚科	欠席
板倉 絹子	島根大学医学部皮膚科	欠席
藤井 愛	島根大学医学部皮膚科	欠席

厚生労働省科学研究費補助金

「難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等実用化研究事業（免疫アレルギー疾患等実用化研究事業 免疫アレルギー疾患実用化研究分野）」：
生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定
(H24-難治等（免）一般-005)」

平成 26 年度 第 2 回 班会議プログラム

日時：平成 27 年 1 月 12 日（月 祝日）10：00～15：00（予定）
場所：島根イン青山 多目的ホール パインコートⅡ
住所：〒107-0062 東京都港区南青山 7 丁目 1 番 5 号
Tel：03-3797-3399

事務局：島根大学医学部皮膚科
担当：高橋 仁、板倉絹子
〒693-8501 出雲市塩冶町 89-1
TEL 0853-20-2210
FAX 0853-21-8317
e-mail tkh4@med.shimane-u.ac.jp（高橋）
kinitaku@med.shimane-u.ac.jp（板倉）

平成 26 年度 第 2 回 班会議プログラム

10:00～

開会の挨拶

研究代表者 森田栄伸 (島根大学医学部皮膚科)

10:10～11:30 共通研究課題

加水分解コムギアレルギーの予後調査

千貫祐子 (島根大学医学部皮膚科)

パンフレット作成

高橋 仁 (島根大学医学部皮膚科)

OAS の疫学に関するアンケート調査

北場 俊、小野慧美、松井佐起、室田浩之、片山一郎 (大阪大学医学部皮膚科)

11:40～12:20 分担研究者成果報告

茶のしずく石鹼等に含まれた加水分解コムギによる即時型コムギアレルギー患者の経過調査
—アンケート調査による現状の把握—

平郡真記子、秀 道広 (広島大学医学部皮膚科)

食物アレルギーの病態に即した好塩基球活性化試験の樹立

芝間さやか、宇賀神つかさ、横関博雄 (東京医科歯科大学医学部皮膚科)

12:20～

昼食

13:10～14:30 分担研究者成果報告

小麦依存性運動誘発アナフィラキシーにおけるグリアジンコンポーネント特異 IgE の陽性率
松尾裕彰⁽¹⁾、横大路智治⁽¹⁾、平郡真記子⁽²⁾、秀 道広⁽²⁾、千貫祐子⁽³⁾、森田栄伸⁽³⁾

((1) 広島大学病態解析治療学、(2) 広島大学医学部皮膚科、(3) 島根大学医学部皮膚科)

小児 OAS と花粉症との関係

大澤陽子、藤枝重治 (福井赤十字病院 耳鼻咽喉科、福井大学医学部 耳鼻咽喉科)

加水分解コムギ含有石鹼使用者における小麦アレルギー発症危険因子：症例対照研究

福富友馬⁽¹⁾、岸川禮子⁽²⁾、杉山晃子⁽²⁾、南 崇史⁽¹⁾、谷口正実⁽¹⁾

((1) 国立病院機構相模原病院、(2) 国立病院機構福岡病院)

イネ科花粉に交差反応したと思われる小麦 FDEIA

千貫祐子、森田栄伸 (島根大学医学部皮膚科)

14:30～

全体発表会の打ち合わせ、事務連絡

高橋 仁、板倉絹子、藤井 愛 (島根大学医学部皮膚科)

(進行により、時間の変更がございますので、ご容赦願います)

平成 26 年度 食物アレルギー研究班第 2 回班会議検討事項議事録
研究課題「生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発お
よび治療指針の策定」

日時：平成 27 年 1 月 12 日（月、祝日）10：00～15：00

場所：島根イン青山 多目的ホール パインコートⅡ

住所：〒107-0062 東京都港区南青山 7 丁目 1 番 5 号

班会議プログラム

1. 開会の挨拶

研究代表者 森田栄伸（島根大学医学部皮膚科）

2. 共通研究課題

加水分解コムギアレルギーの予後調査

千貫祐子（島根大学医学部皮膚科）

パンフレットの作成

高橋 仁（島根大学医学部皮膚科）

OAS の疫学に関するアンケート調査

北場俊、小野慧美、松井佐起、室田浩之、片山一朗（大阪大学医学部皮膚科）

3. 分担研究者成果報告

茶のしずく石鹼等に含まれた加水分解コムギによる即時型コムギアレルギー患者の経過調査－アンケート調査による現状の把握－

平郡真記子、秀 道広（広島大学医学部皮膚科）

食物アレルギーの病態に即した好塩基球活性化試験の樹立

芝間さやか、宇賀神つかさ、横関博雄（東京医科歯科大学医学部皮膚科）

小麦依存性運動誘発アナフィラキシーにおけるグリアジンコンポーネント特異 IgE の陽性率

松尾裕彰⁽¹⁾、横大路智治⁽¹⁾、平郡真記子⁽²⁾、秀 道広⁽²⁾、千貫祐子⁽³⁾、森田栄伸⁽³⁾

((1) 広島大学病態解析治療学、(2) 広島大学医学部皮膚科、(3) 島根大学医学部皮膚科)

小児 OAS と花粉症との関係

大澤陽子、藤枝重治（福井赤十字病院 耳鼻咽喉科、福井大学医学部 耳鼻咽喉科）

加水分解コムギ含有石鹼使用者における小麦アレルギー発症危険因子：症例対照研究

福富友馬⁽¹⁾、岸川禮子⁽²⁾、杉山晃子⁽²⁾、南 崇史⁽¹⁾、谷口正実⁽¹⁾

((1) 国立病院機構相模原病院、(2) 国立病院機構福岡病院)

イネ科花粉に交差反応したと思われる小麦 FDEIA

千貫祐子、森田栄伸（島根大学医学部皮膚科）

加水分解コムギアレルギーにおける最終症例登録状況、各種アンケートの解析結果、および、ゲノム解析について

松永佳世子（藤田保健衛生大学医学部皮膚科学）

4. 事務連絡、全体発表会について

検討事項

1. 加水分解コムギアレルギーの予後調査について

① 小麦製品を摂取している症例、摂取していない症例での治癒率の違いを検討する。その際、ELISA、プリックテストの結果が記録されている症例であれば、評価項目に加える。

2. パンフレットについて

「特殊型食物アレルギーの診療の手引き 2015」を作成するため、事前にメールで送付した案に対する追加修正等の検討を行った。

(1) 加水分解コムギによる小麦アレルギーについて

① 本項目のタイトルは、「加水分解コムギ(グルパール 19S®)含有石鹼による小麦アレルギー」とする。

② Kaplan-Meier 法を用いた治癒曲線の図において、「略治」を用いることとし、症例数を示すこととした。また、累積略治割合 (%) の表を示すこととした。

③ 略治の定義を再度各施設で確認し、条件に合致しない症例が登録されている場合は島根大学へ連絡することとした。

(2) 食物依存性運動誘発アナフィラキシーについて

① 「診断基準 (案)」の表記を「診断基準」とする。

② 負荷試験についての説明は、「**負荷試験はアレルギー診療に精通した臨床医によって実施され、アスピリン不耐症や運動誘発喘息患者への実施は注意を要する。付表 2 の実施例を参考に患者に応じて適宜修正して実施する。」と表記する。

③ また、負荷試験で必ずしも症状が再現されないことを記載し、負荷試験の再現性に関する参考文献を記載することとした。

④ 原因食物の内訳に症例の収集方法を記載する。

⑤ 「発症予防と治療」の項に記載する事柄とその順序に関して検討した。

「原則、原因食品摂取後は運動を避ける」、「非運動時でも症状が誘発される既往がある症例では原因食品を摂取しないことを検討する」、「患者の重症度、発症状況が多彩である」との内容を記載することとした。なお、詳細な表現については、後日、メールにて確認することとした。

(3) 口腔アレルギー症候群について

① 「診断基準（案）」の表記を「診断基準」とする。

② 原因食物のグラフは、頻度が多い順に示すこととした。また、食物の科別のグラフを追加することとした。

③ 原因食物の内訳に症例の収集方法を記載する。

④ ステージ分類の引用について、再度確認することとした。

⑤ ステージ分類は、「発症時の症状を判定する指標」として用いることとした。

⑥ 「発症予防と治療」の項に記載する事柄を検討した。

「多くの食品は加熱処理によって経口摂取が可能になる」との内容を加えることとした。表記については、再度検討することとした。

⑦ アナフィラキシーショックを呈する食品を追加記載することとした。

⑧ 症状の頻度を追加することとした。

⑨ ラテックスフルーツ症候群、プリックテストについての記載を参考として加えることとし、記載内容については、メールにて再度検討することとした。

(4) 付表 2、経口負荷試験の実施例について

① 血清保存の目的を記載することとした。

② 本プロトコールはあくまでも実施例であり、各施設での条件あるいは患者の発症状況等に応じて適宜変更し実施することを確認した。

V. 研究成果の刊行に関する一覧表

論文

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nilsson N, Sjölander S, Baar A, Berthold M, Pahr S, Vrtala S, Valenta R, Morita E, Hedlin G, Borres MP, Nilsson C.	Wheat allergy in children evaluated with challenge and IgE antibodies to wheat components.	Pediatr Allergy Immunol.	26	119-25	2015
Brockow K, Kneissl D, Valentini L, Zelger O, Grosber M, Kugler C, Werich M, Darsow U, Matsuo H, Morita E, Ring J.	Using a gluten oral food challenge protocol to improve diagnosis of wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis.	J Allergy Clin Immunol			2014 (in press)
Nakamura M, Yagami A, Hara K, Sano A, Kobayashi T, Aihara M, Hide M, Chinuki Y, Morita E, Teshima R, Matsunaga K.	A new reliable method for detecting specific IgE antibodies in the patients with immediate type wheat allergy due to hydrolyzed wheat protein: correlation of its titer and clinical severity.	Allergol Int.	63	243-9	2014
Fukushima S, Morita E, Tanioka M, Miyachi Y, Murakami Y, Matsunaka H, Ihn H.	Clinical evaluation of moisturizers with physiological analysis of stratum corneum TARC and TSLP.	Journal of Cosmetics, Dermatological Sciences and Applications			2014 (in press)
Inomata N, Nagashima M, Hakuta A, Aihara M	Food allergy preceded by contact urticarial due to the same food : involvement of epicutaneous sensitization in food allergy	Allergol Int	64	73-78	2015
Inomata N, Okazaki F, Moriyama T, Nomura Y, Yamaguchi Y, Honjo T, Kawamura Y, Narita H, Aihara M	Identification of peamaclein as a marker allergen related to systemic reactions in peach allergy	Ann Allergy Asthma Immunol	112(2)	175-177	2014
Inomata N, Chin K, Aihara M	Anaphylaxis caused by ingesting jellyfish in a subject with fermented soybean allergy: Possibility of epicutaneous sensitization to poly-gamma-glutamic acid by jellyfish stings	J Dermatol	41	752-774	2014

Nakamura M, Yagami A, Hara K, Sano A, Kobayashi T, Aihara M, Hide M, Chinuki Y, Morita E, Teshima R, Matsunaga K	A new reliable method for detecting specific IgE antibodies in the patients with immediate type wheat allergy due to hydrolyzed wheat protein: Correlation of its titer and clinical severity	Allergol Int	63	243-249	2014
山川有子, 山野朋子, 相原道子, 穂山浩, 池澤善郎	フランス製赤色マカロンに含まれるコチニール色素が原因と思われるアナフィラキシーの1例-最近のコチニールアレルギーについて-	皮膚臨床	56(9)	1241-1245	2014
中村和子, 松倉節子, 岡田瑠奈, 大野真梨恵, 守田亜希子, 池澤優子, 相原道子, 中村政志, 矢上晶子, 松永佳世子, 蒲原 毅	加水分解コムギ含有石鹸使用後に発症した小麦アレルギーの臨床経過についての検討	J Environ Dermatol Cutan Allergol	8	264-270	2014
篠田純子, 松倉節子, 久田恭子, 守田亜希子, 中村和子, 山川有子, 相原道子, 蒲原 毅	オレンジと多種の果物による pollen-food allergy syndorome の1例	日本ラテックスアレルギー研究会会誌	17	58-60	2014
白田阿美子, 松浦みどり, 藤村奈緒, 猪又直子, 松倉節子, 池澤善郎, 北村薫, 中山 哲, 相原道子	ラテックスアレルギーコンポーネントの臨床的検討	日本ラテックスアレルギー研究会会誌	17	85-90	2014
種子島智彦, 池田信昭, 井上雄介, 相原道子	トニックウォーターによる固定疹の1例	臨皮	68(3)	207-210	2014
Murota H, Ei-Latif MA, Tamura T, Katayama I.	Olopatadine hydrochloride decreases tissue interleukin-31 levels in an atopic dermatitis mouse model.	Acta Derm Venereol.	94(1)	78-79.	2014
Matsui S, Murota H, Takahashi A, Yang L, Lee JB, Omiya K, Ohmi M, Kikuta J, Ishii M, Katayama I.	Dynamic analysis of histamine-mediated attenuation of acetylcholine-induced sweating via GSK3 β activation. J Invest Dermatol	J Invest Dermatol.	134(2)	326-334.	2014
Itoi S, Tanemura A, Kotobuki Y, Wataya-Kaneda M, Tsuruta D, Ishii M, Katayama I.	Coexistence of Langerhans cells activation and immune cells infiltration in progressive nonsegmental vitiligo.	J Dermatol Sci.	73(1)	83-85.	2014

Murota H, Itoi S, Terao M, Matsui S, Kawai H, Satou Y, Suda K, Katayama I.	Topical cholesterol treatment ameliorates hapten-evoked cutaneous hypersensitivity by sustaining expression of 11 β -HSD1 in epidermis.	Exp Dermatol.	23(1)	68-70.	2014
Inoue T, Yamaoka T, Murota H, Yokomi A, Tanemura A, Igawa K, Tani M, Katayama I.	Effective oral psoralen plus ultraviolet a therapy for digital ulcers with revascularization in systemic sclerosis.	Acta Derm Venereol.	134(2)	326-334.	2014
Yamaga K, Hanafusa T, Azukizawa H, Tanemura A, Nii T, Nishide M, Narazaki M, Katayama I.	Immune reconstitution inflammatory syndrome in a patient with adult-onset Still's disease. graft-versus-host-like skin reaction with possible asymptomatic human herpes virus reactivation during steroid tapering.	Eur J Dermatol.	24(1)	101-103.	2014
Yamaoka T, Murota H, Tani M, Katayama I.	Severe rosacea with prominent Demodex folliculorum in a patient with HIV.	J Dermatol.	41(2)	195-196.	2014
Hashimoto N, Tanemura A, Yamada M, Itoi S, Katayama I.	Hepatitis C-related mixed type vitiligo in a patient with Ivemark syndrome.	J Dermatol.	41(2)	185-6.	2014
Suma A, Murota H, Kitaba S, Yamaoka T, Kato K, Matsui S, Takahashi A, Yokomi A, Katayama I.	Idiopathic Pure Sudomotor Failure Responding to Oral Antihistamine with Sweating Activities.	Acta Derm Venereol	94(6)	723-724.	2014
Jin H, Arase N, Hirayasu K, Kohyama M, Suenaga T, Saito F, Tanimura K, Matsuoka S, Ebina K, Shi K, Toyama-Sorimachi N, Yasuda S, Horita T, Hiwa R, Takasugi K, Ohmura K, Yoshikawa H, Saito T, Atsumi T, Sasazuki T, Katayama I, Lanier LL, Arase H.	Autoantibodies to IgG/HLA class II complexes are associated with rheumatoid arthritis susceptibility.	Proc Natl Acad Sci USA.	111(10)	3787-3792.	2014
Yang L, Murota H, Serada S, Fujimoto M, Kudo A, Naka T, Katayama I.	Histamine Contributes to Tissue Remodeling via Periostin Expression.	J Invest Dermatol	134(8)	2105-2113.	2014
Senda S, Igawa K, Nishioka M, Murota H, Katayama I.	Systemic sclerosis with sarcoidosis. case report	J Dermatol.	41(5)	421-423.	2014

	and review of the published work.				
Tamiya H, Terao M, Takiuchi T, Nakahara M, Sasaki Y, Katayama I, Yoshikawa H, Iwai	K. IFN- γ or IFN- α ameliorates chronic proliferative dermatitis by inducing expression of linear ubiquitin chain assembly complex.	J Immunol.	192(8)	3793-3804.	2014
Matsui S, Murota H, Ono E, Kikuta J, Ishii M, Katayama I.	Olopatadine hydrochloride restores histamine-induced impaired sweating.	J Dermatol Sci.	74(3)	260-261.	2014
Terao M, Tani M, Itoi S, Yoshimura T, Hamasaki T, Murota H, Katayama I.	11 β -hydroxysteroid dehydrogenase 1 specific inhibitor increased dermal collagen content and promotes fibroblast proliferation.	PLoS One.	9(3)	e93051.	2014
Kotobuki Y, Yang L, Serada S, Tanemura A, Yang F, Nomura S, Kudo A, Izuhara K, Murota H, Fujimoto M, Katayama I, Naka T.	Periostin accelerates human malignant melanoma progression by modifying the melanoma microenvironment.	Pigment Cell Melanoma Res.	27(4)	630-639.	2014
Murakami Y, Wataya-Kaneda M, Tanaka M, Takahashi A, Tsujimura A, Inoue K, Nonomura N, Katayama I.	Two Japanese cases of birt-hogg-dube syndrome with pulmonary cysts, fibrofolliculomas, and renal cell carcinomas.	Case Rep Dermatol.	6(1)	20-28.	2014
Itoi S, Tanemura A, Tsuji C, Kitaba S, Yokomi A, Katayama I, Tateishi C, Tsuruta D.	A rare case of male bullous lupus erythematosus complicated with subsequent annular hypopigmentation.	Case Rep Dermatol.	6(1)	91-97.	2014
Tanaka A, Hayaishi N, Kondo Y, Kurachi K, Tanemura A, Katayama I.	Severe gangrene accompanied by varicella zoster virus-related vasculitis mimicking rheumatoid vasculitis.	Case Rep Dermatol.	6(1)	103-107.	2014
Oiso N, Nomi N, Fukai K, Tanemura A, Suzuki T, Katayama I, Wakamatsu K, Muto M, Kawada A.	Nevus depigmentosus with pale skin, yellow-brown hair and a light brown iris.	Eur J Dermatol.	24(3)	406-407.	2014